

# 令和5年度 第5回ニセコ町観光審議会 議事録

## 1 日 時

令和6年（2024年）1月17日（月） 10:00～11:30

## 2 場 所

ニセコ町役場 3階 町民ホール（議場）

## 3 出席者

委 員 伊藤委員、菊井委員、高久委員、岩崎委員、高井委員、桑添委員、  
石黒委員、若杉委員、向田委員、長谷川委員、吉村委員 （11名）

ニセコ町 片山町長  
（事務局） 商工観光課 阿部課長、三上参事、川埜係長、米田主査、  
深澤主任、鈴木主任

## 4 内 容

### (1) 片山町長挨拶

静かな新年をと思っていた中で、能登半島の大地震、日航機事故等があり、おめでたい雰囲気吹き飛んでしまった状況だが、本日の観光審議会にご参集賜り感謝申し上げます。

20数年前の環境基本計画を契機として、ニセコの将来的な環境、観光を守るための財源として導入検討を進めてきた宿泊税について、先日の12月議会でお認めいただいた。皆様のご協力に心から厚く感謝を申し上げます。観光客・住民双方にとって喫緊の課題である移動の自由が本当に脆弱なので、できるだけ早く着手していきたいと考えている。

広報でもお知らせしているが、関係各位の支援の下、GOアプリを活用したタクシー11台がニセコエリアを循環している。また、スキマバイトのタイミー社と連携協定を締結し、ニセコ、倶知安のみならず、蘭越、真狩も含めて、夏は農家、冬は宿泊事業者の方に大変有効に活用いただいているところである。

我々が2年、3年など長期にわたって滞在可能な仕組みを創設してほしいとお願いしてきたデジタルノマドビザも、国の骨太の方針に記載され、進め方について、各省庁で調整中とのことである。

また、デロイト・トーマツ社にニセコルールと景観条例をはじめとする景観への取組の2つの社会的価値の分析をお願いし、公表に向けて動いているところ。いずれも特に海外の方からの評価が高いといったものであるが、ニセコのまちを将来の子どもたちにどうバトンタッチしていくかについてきちんと考えたうえで、持続可能な観光の在り方を模索していきたいと考えている。

本日の審議会が多様なご意見を賜ればと考えているので、よろしくお願ひしたい。

## (2) 議題

「観光客の行動変容に向けた取組について（資料1）」について事務局より説明を行った。

### 〈米田主査〉

観光客の行動変容に向けた取組について、ハワイ州でサステイナブルツーリズムの推進に向けたウェブサイトを作成しており、非常にハイクオリティであるため、参考にしつつ、ニセコ版の持続可能な観光に関する情報発信をできればと考えている。具体的には、ウェブサイトでの情報発信に加えて、事業者がPRに活用できるような動画やロゴの作成も想定している。

作成の背景として、ニセコ町観光振興ビジョンの中で「観光客の行動変容の喚起」と謳っているのに実現できていない現状と、特にインバウンドはサステイナブルツーリズムへの感度が高く、取組を今やらないと、今後の国際競争の中で置いていかれてしまう可能性があるという点で、取組を進められればと考えているところである。

具体的には観光客へのメッセージの発信、ニセコ町の取組の紹介、ロゴや動画などの広報ツールの作成を考えていて、インバウンドの方がより高感度ということもあり、まずは英語版で作れればと考えている。これらの取組により、刺さる観光客層へのアプローチ、事業者の営業ツールとしての活用、町としての方針を掲げることによる事業者の取組の後押しとなり、最終的には観光振興ビジョンに掲げる持続可能な観光地域づくりの底上げにつなげていきたい。

ハワイ州の観光局の取組について、マラマハワイというスローガンを掲げていて、マラマがハワイ語で思いやりの心という意味である。思いやりの心を持って持続可能な観光を推進しようというスローガンのもと、旅行者へのメッセージ、関係者の取り組み、PR動画などを専用サイトで発信している。美しいハワイを未来へとつなぐためにできることや、自分たちが考える持続可能な観光、旅行者にお願いしたい5つのアクションなどがコンテンツとしてあり、例えば海洋動物に出会ってもむやみに近づかないとか、有害成分の入った日焼け止めを使うのをやめようとか、エコバッグ、マイボトルなどを持参しようなどをメッセージとして発信している。動画についても、サンゴ礁への悪影響を防ぐための動画や、ハワイ語で海という意味を持つ”KAI”の頭文字を用いて、海を安心・安全に楽しむための動画などを作成している。

ニセコ町の取組として、現時点で我々が考えている内容をご説明させていただく。ウェブサイトの作成については、コンテンツとして、ニセコ町が考える持続可能な観光、旅行者へのメッセージ、旅行者にできること、ニセコ町の取組の紹介、関連動画を現時点で念頭に置いている。そのうえで、「マラマハワイ」のように、ニセコ町版のスローガンも考えたいと思っている。

ニセコ町が考える持続可能な観光については、観光振興ビジョンとも紐づけて説明できればと考えている。持続可能な観光をしましようというのを前面に出していくというよりも、ニセコ町として、町民や観光客の方から信頼される持続可能な国際リゾートを将来像として掲げていて、その達成には、持続可能な観光が必要なため、一緒に取組を進めていきませんかというイメージでメッセージを発信できればと考えているところ。

次に、「マラマハワイ」のようなスローガンについて、正直、我々でも全然案が煮詰まっているわけではない中で、いくつか考えているのが、例えばマラマハワイ同様に、北海道弁とかアイヌ語が使えるかもしれないけれど、でも安易に使うと、逆にマイナスではないかというところ。後は、町民、事業者、旅行者の三方よしとなるような要素を盛り込むとか、持続可能な国際リゾートの形成に向けて、観光客と町が一緒になって作っていかうという思いをスローガンにできるのではと考えている。スローガンについては、ウェブサイトに掲載する内容などのコンテンツを固めて、最後にずばりこれだという形で決めてもいいのかもしれないが、本日の審議会で、こういう要素を入れるべきや、むしろこういう観点はやめるべきなどのご意見があればぜひいただきたい。

スローガンの要素として、担当でいくつか考えたものだが、例えばともに作り上げていくとか、心を豊かにとか、ハワイの“KAI”のようにニセコのそれぞれの頭文字を引っ張ってきてスローガンができないかななどと考えているところ。

次に、旅行者へのメッセージの案について、現在6つを想定している。現時点で順番を決めているわけではないが、「①ニセコルールを守る」、「②エコバッグやマイボトルを持参する」、「③環境負荷が少ない形で楽しむ」、「④地元のものに触れる」、「⑤自然は自然のまま」、「⑥人と自然に優しい取組を応援する」の6つである。ねらいとして、「①ニセコルールを守る」であれば、命を守るための極めて大事な取組として、しっかりローカルコミュニティを尊重してほしいということや、②や④については、事業者の取組の後押しや地域内消費の拡大による事業者への応援を念頭に置いて、メッセージにできればと考えている。

メッセージごとの要素として、「①ニセコルールを守る」であれば、ニセコルールの背景や概要をご案内するとともに、新谷暁生さんへのインタビュー動画の撮影などを想定している。

「②エコバッグやマイボトルを持参する」については、ハワイでもメッセージの1つになっているように、外国の方は環境への意識が非常に高いので、メッセージに組み込み、町内事業者の取組をご案内できればと思っている。

「③環境負荷が少ない形で楽しむ」については、ニセコ町がGSTCの審査をした際にも環境への意識をもっとPRすべきといったご指摘をいただいたため、環境負荷の少ない楽しみ方をご紹介できればと考えている。例えば、レンタサイクルや、フットパスの推進、カーシェアでのハイブリッドカー導入、トレッキング、周遊バスなどがあると思っているが、周遊バスについては、海外のスキー場だとEV循環バスもあるようなので、現在の周遊バスがEVバスでない中ではあまりアピールポイントにならないのでは？とも思っているところである。

「④地元のものに触れる」については、ニセコならではのものに触れていただくことで、事業者還元にもつながるのではと考えている。地産地消の促進に向けて、リスト作成も考えたが、メニュー1つでも地産地消の度合いは異なってくる中で、リストの作成は難しいものの、思いとしてメッセージの1つに組み込みたいと考えている。

「⑤自然は自然のまま」については、自然景観もニセコの重要な魅力の1つという中で、ごみの持ち帰り、植生を荒らさない、野生動物に餌付けしないといった情報の発信を

想定している。

「⑥人と自然に優しい取組を応援する」については、他のメッセージと比べて抽象的ではあるが、発信するメッセージなどが、ニセコだけの取組にとどまらず、旅行者の居住地や別の旅行先にも広がっていけばいいなという願いを込めて、メッセージの1つとして設定したいと思っている。具体的にはニセコの取組が SNS などを通して、旅行者のコミュニティに広がっていくことや、ニセコの自然を守るために寄付やふるさと納税することなどを想定している。

作成予定の関連動画については、メッセージと紐づく形で、例えばニセコルールの啓発や新谷暁生さんへのインタビュー、住民主導による環境の取組である NIS-ECO など町内の方の取組や持続可能なアクティビティの紹介、自然景観の保全啓発などの動画をそれぞれ1分程度で作成できればと考えている。

今後のスケジュールとして、1月末にウェブサイトに掲載する柱を決定し、2月以降具体的な内容等を決めていったうえで、いったん3月末までにウェブサイトが公開できるように準備していきたいと思っている。そのうえで、3月までに作成しきれない動画については、来年度以降に継続して作成していければと考えているところ。

持続可能な観光に関するメッセージについて補足すると、旅行者をただ抑えつける形ではなくて、環境に配慮しつつ、ニセコ滞在を楽しんでいただくニュアンスも入れたいと考えている。

スローガンや紹介すべき取組や人物などについて、ぜひみなさまのご意見をいただきたい。

### (3) 意見交換

議題について、意見交換を行った。

#### 〈委員〉

ニセコとしてまさに発信すべき内容と強く思うので、事務局の方向性に大きな異論はないが、注意すべき部分について、3点お伝えしたい。

1点目は、デザイン、センスがほぼすべてといっても過言ではないので、きちんとプロに委託して国際的に通用する、響くものにすべきということ。マラマハワイだけでなく、コペンハーゲンの Localhood や Swisstainable などデザインやコピーの検討にかなりの時間と労力を割いていて、それが結果として国際的な競争力につながっている。社会的にも認知度の高いニセコにおいて、中途半端なものを出した時のネガティブ・インパクトを考えると、デザインなどのプロに委託をすべきではないか。年度内にスローガンを作成して、コンテンツについては、審議会の場合などを活用して、町民と一緒に来年度以降作成するといったスケジュールにすべきではないか。

2点目は、日本の文脈と海外、特に欧米豪の文脈が異なることを意識すべきということ。海外では、大きなビジョンのもと、具体的な行動変容を求めるような書き方である一方で、日本では、「旅館」や「日本食」を純粹に進めているだけで、それによってどのようにサステナビリティに寄与するのかというメッセージが希薄であることも多い。せつか

くいいビジョンを描いていても、出し方が日本的だともったいないので、特に欧米豪を意識したメッセージにしていくべきである。

3点目は、宿泊業や飲食業だけでなく、幅広い産業を巻き込んだ形でのメッセージにすべきということ。海外を見ると、観光に特化したメッセージというより、行動変容が地域や地球にどんな影響を与えるのかについて、具体的かつ踏み込んで幅広くメッセージを出しているのが、雪やスキーだけでなく、水資源や地球温暖化など具体的なインパクトにまで言及することが望ましいのではないか。

#### 〈委員〉

せっかく作成するのであればいいものにしたいという中で、私もスケジュールがタイトであるという印象を受けた。

キャッチコピーは受け手の印象に大きく影響するものであり、それを地域だけで決めていいのかという気がするので、プロの方にお任せして、しっかりと費用、時間をかけるべき。

ウェブサイトについて、ニセコの取組の表現や旅行者に来てほしいということであれば、内容は申し分ないと思うが、ニセコミライなどエコな取組による住民の暮らしの部分にもスポットライトを当ててもよいのではないか。

#### 〈委員〉

取組そのものや構成については、事務局案に異議はなく、よい取組だと思う。

外国人が最初からウェブサイトにとどり着くかというところではなく、ロコミや雑誌、新聞、ニュースなどで情報を得て、詳しく知りたいと思った際にウェブサイトを訪問する。浸透の側面でいえば、ウェブサイトのみでは難しいので、他のPR方法も検討すべき。

国内でも、住民への負荷を減らす観点で、侵入禁止などの情報を発信する場所も出てきているが、禁止が前面に出すぎて、「来るな」というメッセージのみになってしまうことは避けるべき。ニセコルールは、来るな、滑るな、入るなではなく、こうすると入れるといったものなので、ウェルカムポリシーとして、拒否とか排除ではなく、こうすれば一緒に楽しめますといった発信を意識する必要があるのではないか。一方で、住民と良い関係を築いてもらうことも重要なので、ごみの捨て方などについては、ディテールを考えて、きちんと理解してもらい、定着していくよう我慢強く取り組む必要もあるのではないか。

住民の話でいえば、こうしたポリシーを住民自身がきちんと語れるということも重要。言葉だけではなかなか行動までは変わっていかないので、観光客だけをお願いするのではなく、地域の人たちと一体になったメッセージを検討する必要があるのではないか。

持続可能な観光への感度が高い人だけでなく、それ以外の人への啓発も重要で、例えばなぜごみを分別する必要があるのかを学ぶことができるような旅行商品の造成も有効な方策の1つだと思われる。

SDGs 以外の概念として、心の豊かさに関するワードであるウェルビーイングが最近よく使われているので、スローガンの要素として検討してもいいのではないか。

### 〈委員〉

私は逆の方向の意見だが、事業をやっている、今シーズン一方的なことを感じる機会が増えてきたので、NOと伝えることもすごく大事なことではないか。例えば温泉の入りが間違っていたり、レンタカーの保険に入っていなかったり、水を分別なく利用していたりすることで、地域の方へのマイナス影響もあるので、地域の声も聴きながら、メッセージなどのコンテンツを作り上げていくべき。

EVについて、事故があつて一度燃えると消火しづらかったり、寒冷地だとエネルギー消費が多く、あまり向かないのではないかと考えられるので、「EV＝環境に優しい」と判断するのは時期尚早ではないか。

### 〈委員〉

取組については特段意見はなく、オフィシャルに発信していくことは重要だし、ウェブサイトだけではなく様々なチャンネルで情報発信することで、より広がっていくと思う。観光事業者の立場としても、先ほど町民が語れないとよくないよねという話があったが、事業者も同様で、ニセコ町が考える持続可能な観光について、きちんと旅行者にご説明できるように一体となって取り組んでいきたいと考えている。

NOということに関連して、外国人に対しての表記方法を考えるべきという話は事業所内でもあったが、ニセコの温泉ルールのようなものがあっても面白いのではないか。その際、単純にお願いするだけではなく、ニセコの温泉を楽しむために必要な要素をお伝えするなど、ただ抑えつけるだけのルールにならない形で、みんなで考えていければいいし、町として発信していく意義があるのではないか。

関連動画の作成については、町として発信していくのであれば、町長から発信するというのもぜひ検討いただきたい。

### 〈委員〉

使い古された言葉かもしれないが、現在の自然や生活環境を次の世代に残していくということをベースに、地域を訪れる旅行者に環境に配慮した行動を求めるといったシナリオが望ましいのではないか。

ハワイ州のウェブサイトを見ると、自然や動植物に加えて、文化の継承編、ビーチ編、海の環境編、ハイキング編などに分類をしているというところが非常に興味深いので、同様にニセコの象徴的な景色、希少な動植物を取り上げると、イメージが伝わりやすいのではないか。ニセコ町でいえば、尻別川は幻の魚：イトウが棲む川として有名で、地域でイトウ保護の取組をされているオビラメの会や、川から流れ出たミネラル成分が、カキなどの海の幸を育てているといったことを紹介すれば、河川の汚染防止にもつながっていくと考えられる。

山についていえば、例えばアンヌプリの希少な植物を紹介したり、ヒグマの問題が騒がれているので、登山するときのごみのルールなどをお伝えできればよいのではないか。

地域で取り組んでいる人やニセコの綺麗な景色もご案内していくとなれば、スケジュールについては、もう少しゆとりを持つべき。

### 〈委員〉

メッセージの「①ニセコルールを守る」について、ローカルの外国人でも守らない人がいて、パトロールでないと注意しづらいし、注意しようにも勇気が必要という中で、わかりやすいビジュアルがあれば、ルールを守らない人がゼロにはならなかったとしても、安全のさらなる啓発につながっていくのではないかと。

「③環境負荷が少ない形で楽しむ」について、光、音などをはじめとして、人によって感覚が異なるものなので、ニセコとしての明確な指針のようなものがあるとよりわかりやすいのではないかとと思われる。

「⑥人と自然に優しい取組を応援する」について、取組というと役場中心で町民になかなか浸透しづらい中で、住民主導のNIS-ECOの取組は素晴らしいとっていて、年配の方から若い方までわかりやすいし、キャッチーさもあるので、SNS等で広がっていけば、文化としても確立されていくのではないかと。

スローガンの例として、“real riches”というのがあったが、富裕層のイメージにあるお金のリッチさではなくて、心の豊かさを発信するというのは面白いと思うし、何よりわかりやすく、視覚的な観点を意識することが重要だと思われる。

### 〈委員〉

個人的に雪山と都会とを行き来するような生活をしている中에서도感じているのだが、ニセコ町として公の情報を発信するにあたって、町民が誇りを持てるという観点を意識してほしいとっている。そのうえで、ニセコルールをメッセージの1つとすることは素晴らしいとっていて、他の地域ではなかなか真似できないような現状で、文化として形成していくにあたり、町民が誇りを持てるように、地域条例を策定すれば、ルールの啓発という観点でも有意義ではないかと。

白馬、野沢など国内の他のスキーリゾートと比較すると、宿泊施設の経営者や旅行エージェントの半数以上が外国系というのがニセコの特徴である。外国資本の恩恵を受けている一方で、ニセコの歴史を継承しつつ、次代につないでいくという観点からすると、町民がその恩恵を享受できることも重要なので、繰り返しになるが、町民が誇りを持てるような内容にしていきたい。

### 〈委員〉

ハワイの事例について、自分の理解だとハワイはいまやキャパオーバーで、観光客と住民の軋轢なんかもあり、積極的な観光のプロモーションはしないというくらい成熟したエリアで、そうした事情のもと、持続可能な観光の取組を進められていると認識している。

ローカル割を設定するなど、ローカルと観光客の折り合いを試みているところだが、住民、事業者、町も含めて、ハワイとニセコは背景が異なっていて、ニセコにはきっとニセコのやり方があるかと思うので、具体的な内容を決定していくにあたり、ニセコのスタイルなどを模索しつつ、ニセコらしいライフスタイルも積極的にアピールしていただけるのではないかと。

〈委員〉

観光振興ビジョンに基づく具体的なアクションプランとして、観光客向けの啓発活動という取組を行うとのことだが、本日の審議会で少し前進したのではないか。

町民向けには持続可能というアピールはされていると思うが、観光客に理解してもらうにあたり、他委員ご指摘の通り、いかにして理解していただくかという観点が非常に重要である。ウェブサイトだけでは当然不十分で、情報の入り口はスキー場、宿泊施設、観光協会、DMO など様々なので、各チャンネルにどう浸透させていくかという観点をまず重視していただきたい。

旅行者へのメッセージについて、情報発信だけでは単なる自己満足にすぎないので、どう取り組んでいただくかが次のステップだが、例えばニセコルールは地道な啓発活動が必要と思われる。エコバックなどの持参については、事前にメッセージを把握していない人に向けて、例えば宿泊施設に泊まったら、エコバックなどをプレゼントして、以後使っていただくというように、事業者を巻き込んだ形での具体的な実践方法を検討し、地道に取組を進めていくことが必要ではないか。

これまで再三申し上げているが、持続可能な観光は広域で取り組むべきものであると同時に、観光客はニセコ町、倶知安町といった行政区分は全くわからないので、ニセコエリア全体の取組になるよう、ニセコ観光圏、ニセコプロモーションボード、観光協会など行政区を越えた連携の在り方もぜひ考えていただきたい。

〈委員〉

ウェブサイトを作った後の運営主体は役場ということになるのか。

〈米田主査〉

観光振興ビジョンにおいて、持続可能な観光の推進主体は観光協会と定めているので、役場でも当然サポートしつつ、メインは観光協会での取組を想定している。

〈委員〉

ニセコルールをはじめ、発信すべき情報にも旬がある中で、役場の負担が増えるとスピード感に欠ける可能性があるし、役場だけで作成したものだとして、町民や事業者の発信に一体感がなくなりうると思っていたので、それを聞いて少し安心した。

制作の段階からも意識すべき観点で、町民に誇りを持ってもらい、広く発信してもらうためには、自分たちで作ったんだという意識も重要だと思うので、キャッチコピーや映像作成の段階から多くの町民に関与してもらえると望ましいのではないか。

〈委員〉

情報の発信者がニセコ町だと行政の人しか見ないので、みんなで発信することが伝わるようなグループとして発信するといったほうがベターだと思われる。

### 〈米田主査〉

いろいろとご意見を賜り感謝申し上げます。

スケジュールについては、デザインやコンテンツなど検討すべき論点は多々あるので、3月末ありきではなく、もう少し柔軟に対応できればと考えている。デザインなどについて、役場職員のみアイデアだと着眼点が偏ってしまうといった課題があることは承知していて、役場外の方と一緒に作っていけるように調整中である。

ウェブサイト以外の情報発信について、事務局内のアイデアとしてあったのが、例えばホテルの予約完了メールにスローガンやウェブサイトのリンクを盛り込んでいただけないかということ。他にもカードサイズの資料を作成して部屋に置いていただければ、ニセコに来る前に知らなかったとしても認知してもらえられるし、こうした取組が広がれば、事業者主体での発信にもつながるので、もう少し連動も意識していきたいと考えている。

NOということについて、あまり抑えつけるような形にしたくないということで、要素として盛り込んでいなかったが、マナー啓発のポスター作成などについて観光協会と話を進めているところ。他方で、関連動画の作成など連動できるところはきちんと連動していければと思っている。

## 5 その他

事務局から、今後の審議会に関するお知らせがあった。

以上